

2018年12月期 第2四半期 決算説明会 質疑応答の要旨

**Q1：部品価格高騰による利益への影響について教えてほしい**

A1：金額は提示できないが、FOB価格の値上げにより、第4四半期以降の業績への影響は減少する。ただし、部品価格高騰による粗利率悪化の影響を完全に解消できるのは2019年度以降となる見込みである。

部品価格の高騰により、製品1台当たりの原価が2%から3%上昇するインパクトがあり、これをFOB価格に転嫁した結果、海外の市場における販売価格は5%程度上昇するのではないかと推測している。

**Q2：部品価格高騰に対する対応が遅れたのではないか**

A2：過去には、セラミックコンデンサの需要が逼迫したことを経験したことがないため、予測が不十分であった面はあるかもしれない。昨年末に、セラミックコンデンサが高騰しているとの情報を得て、加工費など他のコストを含めた仕入価格維持の交渉を行ってきた。しかしながら、仕入価格の上昇が避けられないものとなったため、6月にディスプレイビューターに対しFOB価格の値上げを通知し、7月受注分から値上げを行った。

**Q3：粗利率変動のリスクに対処するために、高価格戦略をとらないのか**

A3：粗利については、開発の企画段階から35%から37%を目標として設定しており、全ての商品に共通である。創業以来の方針なので、今後も変えるつもりはない。

**Q4：業績予想について。期初の想定レート108円から、業績修正時の想定レートを110円としたことによる影響を教えてください**

A4：円安に設定したことにより、売上高にはプラスの影響が生じた。粗利率については不確定な要因が多いため、上期実績に若干の改善を見込んだ程度で見込んでいる。

**Q5：Mogar社について。当初の見込みよりも、売上の取り込みが少なくなったことによる利益への影響を説明してほしい**

A5：売上について、当初予想では、Mogar社の売上を9カ月間取り込んでいた。修正予想では、6カ月間を取り込んでいるが、修正予想で取り込んだ売上のほうが、当初予想で取り込んだ売上よりも多い。これは、当初予想では、弊社がMogar社の親会社となることにより、Mogar社が取り扱う他社ブランドが減少すると見込んだものの、実際に

はさほど減少しなかったためである。修正予想では、当初予想に比して Mogar 社の 1 カ月当たり売上高は増加した。

コストについて、リストラクチャリングを前提に買収したが、イタリアの労働法規制が厳しく、当初予想よりも緩やかにしか進められない影響、すなわち営業利益へのマイナス影響を、修正予想に含めている。

**Q6：カテゴリー別の売上予想について。前回予想から大きな変動がみられるカテゴリーについて、見直しの背景について解説してほしい**

A 6：修正予想は、当期の上期の実績、開発スケジュールの進捗、新製品に対する反応等を見て見直しを行った結果となっている。ハンディオーディオレコーダーは落ち着いた動向を示すが、ハンディビデオレコーダーのような商品寿命が比較的短い商品については、新製品の発売時期、決算のタイミングで大幅に数値が変動する傾向にある。